



②



①



④



③

- ①消防団活動にも熱心に取り組む(写真は副団長時代の出初式)
- ②糖度が高く、酸味が少ないのが特徴の「ひのしづく」
- ③妻・和代さんと長男の悠さん。収穫期は早朝から作業
- ④力を入れている土づくり。手作りの発酵液を混ぜることで病害虫に強い土ができる

「ひのしづく」の「ヒノヘン」

宮崎勲さん(48)は、両親、妻・和代さん、長男・悠さんとの5人暮らし。高校卒業と同時に就農し、今年で30年目を迎える。

「若いときは『イヤだな』と思いつつ、若いうちは『イヤだ』と笑いながら話すが、やってみると、手間をかけた分だけ成果が出る農業の奥深さに、段々とやりがいを持つようになったという。

主に手掛けるのはブランドイチゴ「ひのしづく」。今や希少品種とされているが、それでもこの品種にこだわるのは、シンプルに「自分がいちばんおいしいと思うものを食べて欲しいから」。食べた人が笑顔になるイチゴを作るために、土づくりには特に力を入れる。

みやざき農園のこだわりは、「土ごと発酵」。乳酸菌や納豆菌、酵母菌などで調合した自家製の培養液をもみ殻堆肥に入れ、米ぬかと一緒に土に混ぜることで善玉菌が活性に働

宮崎さんの活動を発信中!



き、土が発酵する。

この土を苗の定植までの約2か月間、太陽熱により熟成させるため、土づくりは5月末から始まるが、このやり方にしてからはイチゴの生育が安定し、手応えを感じているからこそ手間は惜しまない。

地域活動では、長年消防団に携わっており、現在は氷川町消防団の団長として2年目を迎える。

操法大会や出初式などが中止になり、思うような活動はできていないが、「活動することで地域のつながりが生まれる。コロナが収まったら、またやりたい」と前を向く。

後継者となる悠さんは去年就農し、初めて1年間の作業工程を経験した。「自分が若いころより真面目に頑張っている」と目を細めながらも、「これからの農業はマーケティングが重要。息子には、若い視点でどんどんチャレンジして欲しい」と期待を寄せる。



住人十彩

まちの「がんばりびと」を紹介

#24 宮崎 勲さん (東網道)

宮崎 勲 (みやざき いさお)

昭和48年10月21日生まれ(48歳)
 高校卒業後に就農し、イチゴとうるち米を手がける。農業の根幹である土に着目し、独自で「土づくり」の研究を重ねる。
 令和3年4月に氷川町消防団の団長に就任し、安心・安全なまちづくりのために精力的に活動する。